

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 超音波で計測した出生時の門脈血流と出生時因子との関連についての検討
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 小児科・新生児科 （研究責任者）森岡 一朗
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和 7 （西暦 2025 ）年 12 月 31 日
＜対象となる方＞ 西暦 2021 年 7 月 1 日 ～ 西暦 2025 年 3 月 31 日の期間に NICU に入院し超音波で門脈血流を測定した児
＜研究の目的＞ お腹の中にいる赤ちゃんは臍帯（へそのお）や胎盤を通じてお母さんから酸素や栄養をもらっています。臍帯や胎盤に何らかの原因で異常が起きると十分な酸素や栄養が行き届かなくなります。その際に赤ちゃんは脳を守ろうとするために脳への血流を保とうとするために消化管の血流を少なくします。血流異常が起こる病態としては新生児仮死や在胎週数に比して体重が小さい児などが知られています。その血行動態の変化は胎児超音波で確認されていますが、出生後の変化は報告されていません。消化管の血流を集める血管である門脈の血流と出生後にも新生児仮死や在胎週数に比して小さい児などの関連について検討することを目的としてます
＜研究の方法＞ 超音波で計測した門脈血流と在胎週数、出生体重、新生児仮死で認める指標の中でどの項目と関連が強いのかを調べます。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 超音波で計測した門脈血流、在胎週数、出生時の体格の評価として体重、身長、頭囲、体重の standard deviation score (SDS)、身長の SDS、頭囲の SDS、胎児ジストレスの評価として Apgar score、臍帯血 pH、入院時の AST、ALT、LDH、CK。
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1） 小児科・新生児科 氏名：青木 亮二 電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2442 (PHS) 8902

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方